

# 「十三」

## 「気にかける」ことから

教頭 狩野 美智代

新型コロナウイルス感染症につづき、新たな予測不能な事態として熱中症への対応が求められた今年度でしたが、令和6年1月1日、能登半島地震が発生しました。「なんで、元日に・・・」と思いましたが、災害にお正月も何も関係ありません。まさに、予測不能な事態でした。幸いにも学校には大きなダメージがなく、2日間の避難所開設後、通常どおりに3学期を迎えることができました。

市内では甚大な被害を受け、元の生活ができなくなった方もたくさんおられます。珠洲市や輪島市に加え、氷見市の被害の様子も大きく報道されたためか、状況を心配してたくさんの友人が連絡をくれました。励ましてくれたり、大変さを分かち合ってくれたり、「水、持って行くから」「うちに来られ」と言ってくれたりする友人もあり、温かい気持ちを届けてくれたことを大変うれしく思いました。中には、「水は大丈夫」と伝え、「困るとる人にあげられ」や「学校へ持って行かれ」と、私の周りをも気にかけてくれる人もいました。この、「気にかける」ことは、誰にでもできることではありますが、誰もが行動に移すとは限りません。しかし、一人ではできなくても、気にかける気持ちを他と共有することで、思いが実現することもあります。この周りの人を「気にかける」気持ちが支援の第一歩になるのだと思います。

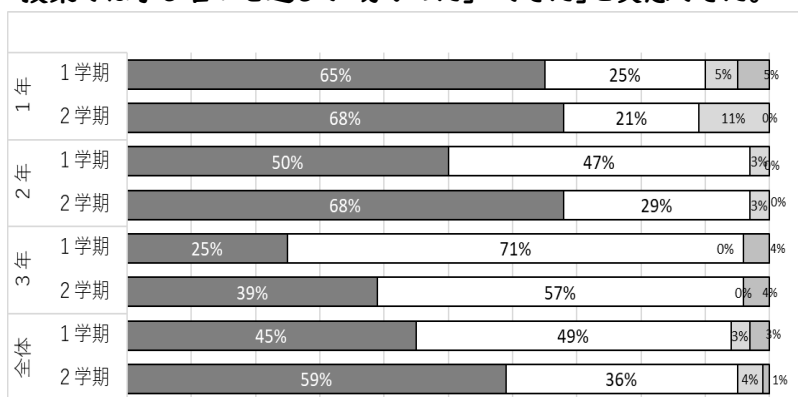
本校の生徒会執行部も、地震で不便な生活を強いられている方々を気にかけて、少しでも助けになりたいという思いで、アルミ缶回収を行いました。3学期の活動予定にはなかったのですが、急遽計画を立て、実行に移しました。そして、たくさんの生徒が趣旨に賛同し、協力してくれたことをうれしく思います。生徒は、いずれは地域や社会を支える一員となります。生徒には、学校での様々な活動をとおして、経験や考えを培い、将来は、周りを気にかけて、できることを模索し、実行する、そんな大人になってほしいと願います。

### ◆◆◆ 学校評価の結果について ◆◆◆

#### アクションプラン1 主体的に学ぶ生徒の育成

【学校評価アンケート（生徒）の結果】

#### 1. 授業では学び合いを通して「分かった」「できた」と実感できた。



4:よくできた
  3:だいたいできた
  2:あまりできなかった
  1:全くできなかった

2. 授業では、ICT (タブレット・電子黒板) を活用して、調べたり、考えを表現したりするなど、自分の学びを広めることができた。

1年	1学期	65%	20%	10%	5%
	2学期	89%		110%	
2年	1学期	46%	47%		7%
	2学期	68%	29%		9%
3年	1学期	25%	71%		0%
	2学期	53%	39%		4%
全体	1学期	45%	47%		5%
	2学期	69%	27%		4%



今年度は、主体的に学ぶ生徒の育成をめざし、タブレット端末やデジタル教科書等の ICT を活用したり、個人やペア、グループ等の学習形態を工夫したりしながら、授業改善を図ってきました。来年度も、令和の時代に求められる生徒の「資質・能力」の育成を目指し、教職員一丸となって研修を進めていきます。

アクションプラン2 認め合い、高め合う生徒の育成

3. 友だちのよいところを見つけることができた。

1年	1学期	75%	15%	5%	5%
	2学期	79%		16%	8%
2年	1学期	57%	43%		0%
	2学期	71%	29%		0%
3年	1学期	54%	42%		0%
	2学期	61%	35%		0%
全体	1学期	61%	35%		1%
	2学期	71%	27%		1%



4. 学校における諸活動 (学校行事、生徒会、学級活動、部活動) において、人の役に立つことができた。

1年	1学期	40%	45%	10%	5%
	2学期	68%	16%	11%	5%
2年	1学期	40%	47%	10%	3%
	2学期	65%	29%		6%
3年	1学期	42%	54%		0%
	2学期	35%	57%		4%
全体	1学期	40%	49%		7%
	2学期	56%	34%		7%



■ 4: よくできた □ 3: だいたいできた ▨ 2: あまりできなかった □ 1: 全くできなかった

学校行事や生徒会活動、部活動等の学校生活全般において、温かな雰囲気でものを認め合い、高め合う生徒の姿が見られました。来年度も、周りの人や地域、社会のためにできることを主体的に考え、行動できる生徒の育成を目指していきます。